

## 小平市の福祉的な交通体系のあり方を考える情報交換会（第8回）

### 意見要旨

令和元年12月6日（金）健康福祉事務センター 第3・4会議室

#### 参加者（団体）の近況等

##### 〈福祉有償運送事業者〉

- ・会員制での予約利用となっているため、当日依頼が入ることはほとんどない。買い物や通院での利用が多い。車椅子用車両を増やしていきたい。
- ・また、意見として車椅子の方が移動にするに当たり、移動方法の選択肢が増えてきていると感じている。駅にはエレベーターが設置され、電車での移動がしやすくなったことや、ユニバーサルデザインタクシーが増えて一般タクシーの利用もできるようになった。介護タクシーの事業者も増えてきている。

##### 〈タクシー事業者〉

- ・ユニバーサルデザインタクシーの台数は増えており、ジャパンタクシーが多い。また、車椅子の予約、利用のお客が増えてきている。今後もジャパンタクシーの増車を検討している。
- ・車椅子であっても自走できる方は、一般のタクシー会社を利用し、ベッドから病院内までの移送が必要な方は介護タクシーを利用している。それぞれの移送サービスにすみ分けができ始めている。
- ・乗務員の高齢化に歯止めがかからない。その中で、トヨタジャパンタクシーだと、横乗りでスロープの取り付け作業が負担となってしまう。日産のNV200を導入していたが、タクシー向けに作られていない部分があり、車椅子対応の日産セレナに入れ替えた。セレナは後ろから乗せる形なので、雨天時にはバックドアが雨よけになっており乗り心地も良いと好評を得ている。

##### 〈介護タクシー事業者〉

- ・車椅子の方が通院する場合に行きは介護タクシーを利用し、帰りは病院の前で一般タ

クシー（ユニバーサルデザイン車両）に乗るなど車椅子の方が一般のタクシーを利用することが増えている印象。ユニバーサルデザインタクシーが増加していることが利用者側にも認知されてきている。

またその一方で、自宅のベッドから病院内での付き添いまでを必要としている方も増えており、介護タクシーの需要も増えていると感じている。

・病院の付き添いの部分だけであれば、シルバー人材センターを利用する手もあるそうなので様々な関係機関と連携をしていきたい。

・自由化により福祉車両1台で介護タクシー事業を始めることができるようになり、事業者が増えやすい状況になったが生計を立てることはなかなか難しい。通院の時間など、利用時間が集中しており、どうしても空いた時間ができてしまう。合間の時間に仕事をとることが難しく事業として成り立たせるには相当な努力が必要。そのため辞めていく介護タクシー事業者も多い。

#### 〈福祉バス〉

・23区内の病院へ通院する利用者が増えているため、遠方への長時間利用となることが多い。近場への利用者がもっと増えてくると、空いた時間に他の利用者の予約を入れるなどの調整ができるようになり、より多くの方にサービスを提供できるのではないかと考えている。

・運転手が固定しているので、お客様とのコミュニケーションは良く取れていると感じている。その意味では固定の利用者が利用しやすい状況となっている。

#### その他

○災害発生時の福祉的な移送について、自治体との連携などを含めた情報交換について。

#### 〈介護タクシー事業者〉

- ・避難所から病院への搬送など介護タクシーに一定の需要がある。
- ・停電時に人工呼吸器を使用している方を心配している。
- ・台風などの事前に災害の発生が分かっている場合は、その直前に燃料の確保が大変になってしまう。

#### 〈タクシー事業者〉

- ・他市とはコミュニティバス・コミュニティタクシーの委託を受けている関係で、災害時についても協定を結んでいる。
- ・発災時は道路状況がどうなるか、車が動けるのか、安全確保の確認ができた場合は運行ができる。

#### 〈福祉有償運送事業者〉

- ・災害時に利用者会員の方々がどのように避難できるかなどの心配はしている。